

氏 名 よし むら きみ ひろ
吉 村 公 宏

所 属 ・ 職 名 英語教育講座（英語学）・教授

研究室電話番号 0742-27-9159
（ダイヤルイン・FAX 兼用）

電子メールアドレス kyteddy@nara-edu.ac.jp

最終学歴及び学位 神戸大学大学院文化学研究科博士課程単位取得退学（1984）
博士（文学）、Ph.D. (linguistics)

所 属 学 会 等 日本認知言語学会，日本言語学会，日本英語学会

専 門 分 野 認知言語学，英語学，日英対照研究



研究と教育について

研究テーマは認知言語学の立場からさまざまな言語現象を解明することです。これまで主に関心を持ってきたのは、英語の中間構文です。英語は他動詞構文が中心ですが、この構文は他動詞を自動詞的に用いる面白い構文です。他動詞的な出来事を、見方を変えて自然発生的な出来事として描くことで、主語となる事物の属性に言及する構文です。研究を深めることで、自動詞構文を好む日本語との接点が捉えられればと考えています。その他、「メタファー」の文化的異質性と認知のかかわり、「主体」と自我(self)がどのように言語に取り込まれるか、などを考えています。夢物語かもしれませんが、東洋思想の根底にある事態把握の認知モードが、西洋のそれとどの程度異質か、どのように言語化の動機づけを成しているか、にもおおいに関心を持っています。

教育実践上のモットーは「わかりやすく，丁寧に，面白く」です。難しいことがどれほど簡単に言えるか，眠っていた好奇心を目覚めさせられるか，を考えて講義に臨んでいます。これを書物で実現した（と思っている）のが、『はじめての認知言語学』（研究社）です。言語学に関心のある方，読んでみてください。講義は一期一会と心得，学問を通じての「出会い」に感謝しています。教育大学に着任したばかりですが，今後は「認知言語学」と「言語教育」のかかわりも考えてみたいと思っています。（認知）言語学は「ことばを科学する」研究分野です。今後，小・中・高の現場の英語・国語教育にどのようにかかわり，生かされるか，関心を向けると同時に，開拓もしたいな，と思っています。関心がおありの大学院志望の方や現職の教員の方，ともに視野を広げ，学んで行きましょう。

主 な 研 究 業 績

- ・『認知意味論の方法 - 経験と動機の言語学 - 』京都：人文書院（1995）[単著]
- ・The Middle Construction in English: A Cognitive Linguistic Analysis. Ph.D.Dissertation. University of Otago（1998）[単著]
- ・『認知音韻・形態論』（シリーズ認知言語学入門 第2巻）東京：大修館書店（2003）[編著]
- ・"What makes a good middle: The role of qualia in the interpretation and acceptability of middle expressions in English." English Language and Linguistics Vol.8, No.2（2004）pp.1-29. Cambridge University Press [John R.Taylor と共著]
- ・『はじめての認知言語学』研究社（2004）[単著]

主な授業担当科目

英語学特論Ⅰ(言語理論Ⅰ)(大学院)，英語学演習Ⅰ(英語統語論演習Ⅰ)(大学院)，言語文化研究Ⅰ，音声学・音韻論，英語学概論

学 会 活 動 日本英語学会評議員。日本認知言語学会理事。関西言語学会では運営委員。

社 会 的 活 動

講 演 の テ ー マ 「言語・発想・文化」，「ことばの科学」，「ものの見方と表現」